

庄内町立図書館だより

よめっちゃ

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2018.1.10(No.30)



図書館カレンダー ★開館時間

⇒休館日 平日 午前 9:00～午後 6:00

⇒10冊貸出 土日 午前 9:00～午後 5:00

⇒おはなしらんど 10:00～図書館ホールにて
無料・申し込み不要 お気軽におこしく下さい☆

1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

蔵書点検前の
10冊貸出期間!

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

図書館からのお知らせ

- ・分館での飲食物持ち込みについて
- ・分館の休館日が変更になります
- ・蔵書点検に伴う休館について

詳しくは下ページをご覧ください↓↓



庄内町 内藤秀因水彩画記念館

Shonai Town Shuin Naito Museum of Watercolor

展示のご案内

2018年1月16日(火)→1月28日(日)

「庄内総合高校芸術展」

本展では庄内総合高等学校の美術部・書華道部による作品および美術の授業で制作された絵画、彫刻、書、映像作品等約150点をご紹介します。爽やかで、見ていて背筋の伸びるような作品、思わずクスリと笑ってしまうユーモア溢れる作品など、新年の幕開けにぴったりの展示です。地域の高校生の活躍をぜひご覧ください。(※華道班によるいはばなは1月19日(木)～1月21日(日)まで展示)



佐藤 ほか「 Shangli」
(油彩、キャンバス)



美術Ⅰ選択者「飛び魚の焼き干し」
【部分】(彫刻・バルサ材)



分館での飲食物 持ち込みについて

分館でもふた付き飲料に限り、図書室(カンガルー文庫含む)に持ち込みできます!
食べ物・ふた付き飲料以外の飲食は狩川公民館ロビーにてお願いします。



分館の休館日変更

年末年始・蔵書点検期間
毎週月曜日と平日の祝日も開館します!
※全館清掃日等、狩川公民館の休館に合わせ、
臨時休館する場合があります



蔵書点検に伴う休館

2018年1月29日から2月5日
蔵書点検のため本館・分館共に休館いたします。
ご不便をおかけしますがどうぞご了承ください。
1月13日から特別10冊貸出期間を設けました!
どうぞたくさんご利用ください🐾

お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP→<http://www.town.shonai.lg.jp/library/>



2018年は成年！



イヌたちが活躍する本を集めてみました！



『なかよし取扱説明書 (犬式)』 きたやま ようこ／著 (理論社)

日本語やお話の世界における「犬」は、動物のイヌを表すほか、ときに忠実さ、卑しさの象徴であったり、「イヌタデ」「イヌザクラ」、『犬枕』のように、にせもの、さらにパロディ(=偽、似せ)といったニュアンスで使われることもあります。

なんだか、少々低い位置づけにあるようにも思える犬ですが、きたやまさんの絵本に登場する犬たちは、人間と1対1の対等な関係にあり、いつも「素直、シンプル」「フラット」な存在として描かれています。

『なかよし取扱説明書(犬式)』は題の通り、犬と人間を例に、パートナーとの良い付き合い方を取扱説明書風になじりよく描いた作品です。少ないけれど優しい描線と言葉、淡々とした調子が心地よい、けれど「なかよしは じぶんのじかんを へらす場合と ゆたかにする場合があります。」なんて少しドキリとする表現もある本です。日々のなかで人との関係が重く、または軽すぎるように感じられたときには、この本を開いてみてください。



『バムとケロのにちようび』 島田 ゆか／作／絵 (文溪堂)

しっかり者の犬のバムと、やんちゃないたずらっ子のかえるのケロちゃん。チャーミングな二人の日常を描いた、大人気「バムとケロ」シリーズの、本作は一作目。

雨の日曜日、二人は本を読んで過ごすことに。まずはケロちゃんのよごした部屋を掃除して、ドーナツをたくさん焼いて、やつのことで本を探しに屋根裏部屋へ。ところがそこにはねずみや蛾や虫がうじゃうじゃいて、さあ大変！二人は無事本を読むことができるのでしょうか？

主人公二人の魅力はもちろん、隅々まで細かく描かれたお部屋のインテリアがとっても素敵なんです。さらに画面の細かいところまでいろいろしかけがあったり、見どころが満載！読むたびに新しい発見があり、何度でも手に取りたくなります。子どもだけでなく、大人も楽しめる絵本です。

ぜひ、シリーズでお読みになることをおすすめします。きっとバムとケロの虜になること請け合いです。



『百人一首入門』 有吉保・神作光一／監修 (淡交社)

新年おめでとうございます。今年は成年。初春らしく百人一首にて一興なれと案じたが…何と犬の歌がない。百人一首に登場する生き物は、山鳥、かさぎ、鳥(鶏)、ほととぎす、千鳥、きりぎりす、鹿の7種類だけなそう。正月から浅学菲才ぶりを露見してしまった私。何としても百人一首と犬をつなげたいと躍起になってたどり着いたのが、江戸時代の狂本絵本「犬百人一首」。古歌のパロディというから、江戸庶民の軽妙洒落な姿に一笑する。ご興味のある方、「国立国会図書館デジタルコレクション」サイトをご覧ください。

Twitterで個人のつぶやきが突然何万人に大ヒットし、数日で消えてしまう現代。方や千年の時空を超え、今だ私たちが魅了し続ける百人一首。日本文化そのものである和歌や様々な古典の世界を、是非今年も折に触れ、楽しんで頂きたいです。



『国際版 少年少女世界文学全集 第8巻 白い牙』 J. ロンドン／原作、サーニ／絵、 徳木とも子／訳、佐伯千秋／文 (小学館)

私がこの本に出会ったのは小学6年生の頃でした。この本の主人公は犬の血が1/4しか入っていない狼犬。「生きる」ための過酷な状況を乗り越えていく物語には、当時まだ幼かった私にとってはかなりショッキングな描写が多くありました。泣きながらも読破できたのは、主人公の狼犬がひたすらカッコいい、そしてハッピー・エンディングだったからです。

タイトルの「白い牙」とは主人公の名前で、作中では「ホワイト・ファンク」と呼ばれ孤高で強くてとにかくカッコよく、時々とても可愛い。喧嘩じゃ負け知らずでも雌犬には勝てず、絡まれれば前足の間に頭を埋め寝たふりをするハードボイルド&いぶし銀な「ホワイト・ファンク」の可愛さは超弩級です。

どんなに厳しい自然も非情な人間も、「ホワイト・ファンク」が更に強くなって、後に幸せになるための肥やしでしかありません。あまりにも遠すぎる憧れだけれど、その気高い姿を追いかけ過ごせば、今年1年が最高にクールになる確率は100%です！



「盲導犬不合格物語」沢田 俊子・文(学習研究社)

盲導犬の存在は広く知られていますが、その裏で盲導犬になれなかった犬たちも少なくないそうです。

幼いころから訓練を受けていても、ほんの些細なクセや性格で惜しまれながら「不適格犬」になってしまう。

この本では、そんな「不適格犬」になってしまった犬たちのその後が語られています。盲導犬になれなかったからといって、大きな問題があるわけではありません。もともと賢い彼らはどんな環境にいてもとても優秀で優しい。

不登校になってしまった少女に寄り添ったり、障害を持つ人の介助犬となったり、彼らのその後の生き方は様々です。

人間にも向き不向きがあるように、犬にだって向き不向きがある。色んな生き方があっていいんだと、励まされる1冊です。

